

琉球闘魚の観察

豊見城市立ゆたか小学校
3年 浜比嘉 晴香 竹之内 和奏

1. 目的、動機

(1) 目的

琉球闘魚の観察をして、ほかの魚とのちがいを
知るとして、琉球闘魚が少なくなってきたのかを調べる。

(2) 動機

グッピーなど、他の魚や小えびを飼っていたが、
晴香のお母さんから「昔は、「琉球闘魚」という魚が川にいて、子供たちがよく取って
遊んでいたらしい。」という話を聞いて、どんな魚なのか？どうしていなくなったの
か？を知りたいと思った。



2. 方法、内容

(1) 図書館で琉球トウギョについて調べる

(2) 川で生き物や環境を調べる

(3) 川の水を調べる

(4) 琉球トウギョを観察する

初めに図書館で琉球トウギョについて調べた。そして、琉球トウギョの大人のオス 2 匹と
メス 3 匹、こども 5 匹をそれぞれ知り合いからもらい、観察をした。

川の調査では、川の生き物の写真を撮り、川の水は持ち帰って調べた。ここで、魚を取る
「仕掛け」で工夫をした。悩んだことは、共同研究だったが、なかなか時間が合わず、一緒
に調べる時間が少なかったこと。



3. 結果

(1) 本から分かったこと

外来種が入ってきたり、川が汚れたりして、琉球トウギョがいなくなった。

オスは尾びれが長く、メスは短い。

昔は比謝川に琉球トウギョがいて、子供たちが取って遊んでいたらしい。

オスが泡をだし、そこにメスが卵を産み、オスが赤ちゃんを守る

(2) 川の環境

沖縄本島の川の生き物と酸性度、カルキの有無、透明度を調べた。透明度は丸い 1.5 リッ
トルのペットボトルに水をいっぱい入れて、牛乳をスポイトで 10 滴たらす。そのペットボト
ルを試験紙の上に置いて、試験紙が見えるまでの水の深さを調べた。また、ペットボトルの
横に A から E で透明度を判定するための紙を貼って、どの範囲に入るかを調べた。

川に住む生き物から、川の汚れを調べようと思い、色々な生き物を捕まえた。捕まえ方は、
網、釣り、仕掛け。捕まえたのは魚が多かったが、魚は自分で遠くまで移動できるので、川

の汚れを調べるのには適当でないことが分かった。仕掛けは、ペットボトルの中に餌を入れて、川に沈めてしばらく置いておき、ペットボトルの中に入ったのを捕まえた。

調べた川	酸性度	カルキ	透明度	生き物や川の様子
億首川	7	無	B/C 15 cm	・マングローブのような川 ・近くに海がある (生き物) コボラ、イシガニ、トントンミー、石巻貝
かんな下流	6	無	-	・汚れた感じ ・魚は居そう
かんなダム	5	無	-	・群れている魚がいっぱい (生き物) ハゼの仲間 (2種類)、グッピー
大浦川下流	6	無	B 16 cm	・上流より汚い (生き物) おうきガニ
大浦川上流	6	無	A 25 cm以上	・飲めそうなくらい透明
報得川	8	無	D 7 cm	・橋の近くに不法投棄のごみの山 (生き物) ティラピア多数
比謝川下流	6	無	A 13.5 cm	(生き物) トントンミー
比謝川中流	7	無	A 24 cm	・琉球トウギョが居そうな感じ (生き物) カメ、ザリガニ、ティラピア、ソードテール
比謝川上流	6	無	A 20.5 cm	・資料館がある (生き物) フナ、セルフインプレコ、テナガエビ、ティラピア、うなぎ、真水くらげなど
どぶ川	6	無	A 23 cm	・すごく汚れていた ・魚は居た

億首川



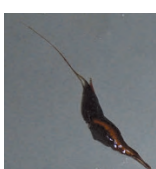
かんなダム



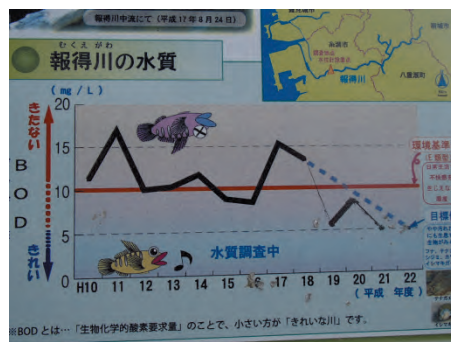
大浦川下流



大浦川上流



報得川



(3) 琉球トウギョの観察

子供のトウギョを5匹、大城栄勝さんにもらった。大人のトウギョは浜比嘉宗明（晴香のおじいちゃん）から、5匹もらった。琉球トウギョは子供と大人と別々の水槽で育てた。ベランダは鳥や酸性雨が怖いので、部屋の中で育てた。また、赤ちゃんが生まれて困った時、電話で座間味さんに質問した。

- 8月18日（火） 大人の琉球トウギョの水槽に泡がたくさん出ていた
- 8月21日（金） 琉球トウギョの赤ちゃんがいた（泡の中に黒い点）
- 8月22日（土） 黒い点が増えた
- 8月23日（日） オスが赤ちゃんを食べていた → オスをほかのケースに移した
- 8月24日（月） 泡が消えていた。琉球トウギョの赤ちゃんが26匹くらいいる。
- 8月27日（木） 大人の琉球トウギョの水槽に水草がないので、酸素を出す錠剤を入れた
- 8月28日（金） 弱っている大人の琉球トウギョを別の水槽に移した
- 8月29日（土） 子供の琉球トウギョが水槽から飛び出したが、すぐに水槽に戻したので死ななかった
- 9月20日（日） 赤ちゃんが大きくなっていた
- 9月26日（土） メイクマンで赤ちゃん用の餌を買ってきてあげた
- 9月27日（日） カマキリのような虫が赤ちゃんの水槽にいた → カマキリのような虫は学校に持って行った→ヤゴだった（脱皮した）→赤ちゃんが減ったのはこの虫のせい??
- 10月2日（金） 赤ちゃんは6匹。このうち、2匹に黒い線の模様がついていた。
- 10月4日（日） （気づき）琉球トウギョの赤ちゃんはグッピーの赤ちゃんより大きくなるのが早い
- 10月31日（土） 赤ちゃんが5匹になっていた（死体は見つからなかった）



子供の琉球トウギョが大きくなって、大人と同じような模様も見えてきた。
11月2日(月) (気づき) 夜10時を過ぎて部屋が暗くなってから、部屋の電気をつけると、大人の琉球トウギョが暴れる。

4. 考察

本には、琉球トウギョが居なくなった原因に「川の汚れ」が書かれていたが、違うかもしれないと思った。なぜなら、カルキ抜きをしていた水道水で飼っていた琉球トウギョのこどもを比謝川から取ってきた水に移し替えると、泡をだしていた。赤ちゃんは生まれなかったが、元気で泡も何度も出していたので、比謝川の水は琉球トウギョに合っていると思う。こどもなのに、泡を出しているのは、泡を出す「練習」をしているのかもしれない。

遠くからでも臭かった、民家の近くのどぶ川にも魚がいた。水が汚いから魚が居なくなるとは言えない。どぶ川の水は濁って見えたが、持ち帰った水で透明度を調べると、23cmも見えた。実験方法が間違っていた、あるいは失敗したのかもしれない。牛乳を1滴ずつスポイトで入れる方法は難しかった。

本では、オスが赤ちゃんを守ると書いていたが、オスも赤ちゃんを食べた。驚いた。赤ちゃんと親を分けるタイミングが分からなくて難しかった。琉球トウギョは親も赤ちゃんを食べるので、外来種の魚も琉球トウギョの赤ちゃんや卵を食べてしまい、少なくなっているのではないかと思った。

琉球トウギョが派手な色なので、鳥などに見つかりやすく、食べられて数が減ったのかもしれないと思ったが、ソードテールも派手な色だが、たくさんいたので、色は居なくなった原因ではないと思う。

川で魚を見ていると、ソードテールが多かった。そして、同じ川で尻尾が食いちぎられたメダカがいた。それを見て、琉球トウギョもソードテールに攻撃されて傷ついて居なくなったのかもしれない。外来種が入ってきたことは、琉球トウギョが居なくなった原因の一つかもしれない。

不法投棄のごみの山は気になる。水道水も見たいはきれいだけど、そのままでは魚にはよくないので、カルキ抜きをする。「カルキ」のように、琉球トウギョにとっては「毒」となるものが、雨が降った時などにごみからしみだしているのではないかと思う。調べ方を変える必要がある。

今回の研究で、網で魚を取ろうとすると、魚がすばしっこくてなかなか捕まえられなかったが、仕掛けをしたらソードテールがいっぱい取れて楽しかった。億首川では、網でカニヤトントンミーを捕まえられたが、10分位で水がひいたかと思うと、雨が降って水が急に増えたりして少し怖い驚きもあった。

5. 参考図書 (1) 郷土の自然 (2) 沖縄の川と生き物

6. 謝辞

大城栄勝さん、浜比嘉宗明さん、座間味眞さん、ご協力ありがとうございました。